

■ 概況

6/22～6/28のNYMEX・WTI先物市場は67.70～69.56ドルの範囲で推移した。

6月29日は、米国の第1四半期実質国内総生産（GDP、確定値）が年率2.0%増と予想を上回る堅調さであったこと、さらに、前日発表の米国原油在庫が前週比大幅な取り崩しだったことを、好感して、小幅に続伸した。同時に、利上げ継続観測の高まりもあり、上値は重かった。8月物終値は前日比0.30ドル高の69.86ドル。

週末30日は、この日発表の複数の米国経済指標がインフレ鈍化を示すものだったことで、利上げ継続の警戒感が後退、3日続伸し、70ドル台を回復した。8月物終値は0.78ドル高の70.64ドル。

週明け7月3日は、この日発表の米中両国の6月の景況指数（PMI）が低調で、両国の景気先行き懸念が高まり、4営業日ぶりに反落した。ただ、朝方は、サウジ・ロシア両国が追加自主減産（計150万b/d）を8月も継続するとの報道で、買いが先行した。8月物終値は、0.85ドル安の69.79ドル。

4日は、米国独立記念日につき、休場。

5日は、3日のサウジ・ロシアの自主減産継続報道に加え、この日、サウジのアブドゥルアジズ・エネルギー相は、OPECプラスの価格防衛に向けての姿勢を強調、先行き需給ひっ迫観測の高まりから反発、70ドル台を回復した。市場は、米国の行楽シーズンの到来を迎え、翌日の米国石油在庫統計発表に注目している。8月物終値は2.00ドル高の71.79ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（8月渡し）は、6月22日～28日の間、73.00～76.50ドルの範囲で

推移した。6月29日73.70ドル、30日74.60ドル、7月3日75.50ドル、4日75.10ドル、5日75.90ドルで推移した。

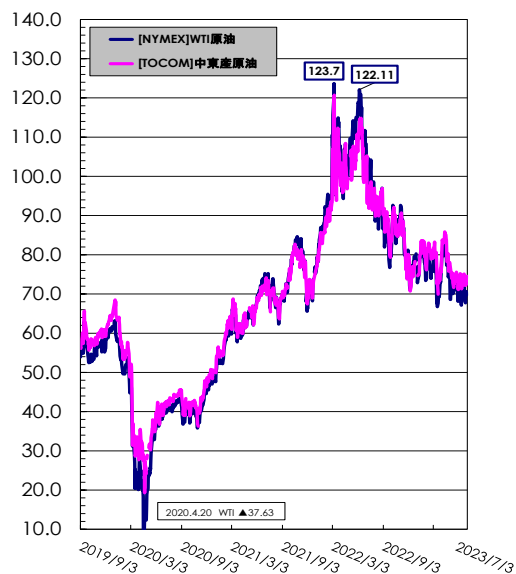
対ドル為替レート（TTM）は、6月22日～28日の間、141.97～143.87円の範囲で推移した。6月29日144.35円、30日144.99円、7月3日144.51円、4日144.56円、5日144.56円で推移した。

そのような中で、7月3日時点の価格は、ガソリンが前週比1.5円の値上がり、軽油も同1.4円の値上がり、灯油は同17円の値上がり（18リットルベース）であった。ガソリンは7週連続の値上がり、軽油も7週連続の値上がり、灯油も7週連続の値上がりとなった。ガソリンの全国平均価格は172.5円であった。

また、6月29日からの燃料油価格激変緩和補助金は30%縮減となり、7月6日～12日の補助金の支給額は10.1円（従来ベースの補助額14.5円）となった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	6/25 ~ 7/1	2,610 ▲71	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	70.4 ▲1.9	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	7/1	12,369 ▲1,059	▲ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	7/3	74.55 ▲1.84	▼ -29.7
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	7/3	69.79 ▲0.42	▼ -29.7
	原油CIF単価 (\$/bbl)	6月上旬	83.26 ▼-3.28	▼ -33.66
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	72,395 ▼-1,392	▼ -23,482
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	138.22 ▼-2.66	▼ -7.85
	外国為替TTSLレート (¥/\$)	7/3	145.51 ▼-1.02	▼ -9.53

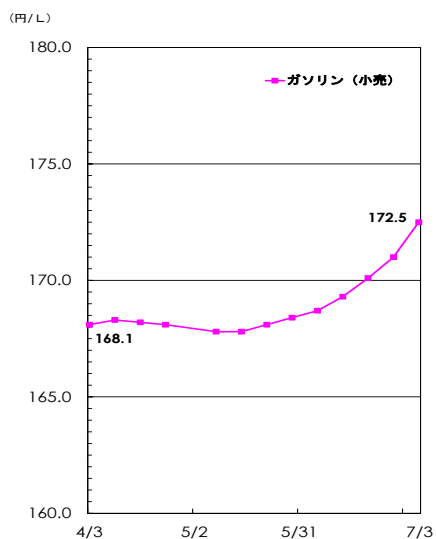
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/25 ~ 7/1	685 ▼ -139	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	723 ▼ -20	▼ -	
	輸出	"	0 ▼ -51	▼ -	
	在庫	7/1	1,586 ▼ -39	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/27 ~ 7/3	79.7 ▲ 0.7	▼ -0.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/27 ~ 7/3	79.0 ➡ 0.0	▼ -6.9
		(TOCOM/中部)	7/3	79.0 ➡ 0.0	▼ -1.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/3	172.5 ▲ 1.5	▼ -1.1	

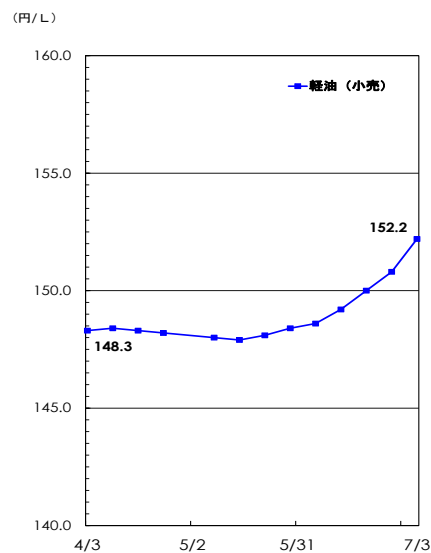
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

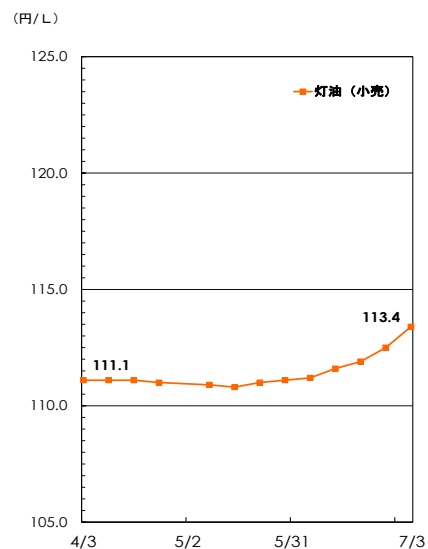
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/25 ~ 7/1	678 ▲ 59	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	583 ▲ 84	▲ -	
	輸出	"	71 ▼ -76	▼ -	
	在庫	7/1	1,444 ▲ 23	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/27 ~ 7/3	80.7 ▲ 1.6	▲ 2.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/27 ~ 7/3	82.6 ▲ 1.3	▼ -10.1
		(TOCOM/中部)	7/3	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/3	152.2 ▲ 1.4	▼ -1.3	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/25 ~ 7/1	103 ▼ -9	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	37 ▼ -16	▼ -	
	輸出	"	0 ▼ -50	▼ -	
	在庫	7/1	1,560 ▲ 67	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/27 ~ 7/3	81.4 ▲ 1.5	▲ 3.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/27 ~ 7/3	78.0 ▼ -1.2	▼ -2.0
		(TOCOM/中部)	7/3	81.6 ▲ 1.6	▲ 2.6
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/3	113.4 ▲ 0.9	▼ -1.2	



■ 関連情報

1 海外/原油

当週(6月29日~7月5日)のWTI石油先物市場は、29日の69.86ドルで始まったが、30日までは、米国石油在庫の減少、利上げ警戒感の後退で、3営業日続伸、3日には反落、4日の休日を挟み、5日にはサウジの価格維持発言、先行き需給ひっ迫観測で反発、71.79ドルで終わった。

6月30日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計の発表は、7月4日の休日につき、一日遅れの6日の予定。

EIAによると、7月3日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比4.4セント値下がりの1ガロン3.527ドル(135.4円/ℓ)と3週連続の値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比3.4

セント値下がりの1ガロン3.767ドル(145.51円/ℓ)と2週連続の値下がり。

ベーカーヒューズ社によると、6月30日時点で、米国内稼働石油掘削装置は、前週比1基減の545基と3週連続の減少。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2023年6月25日~7月1日に休止したトッパー能力は60.2万バレル/日で、前週に対して0.2万バレル/日増加した(全処理能力は333.1万バレル/日)。

原油処理量は261.0万klと、前週に比べ7.1万kl増加。前年に対しては0.2万klの増加。トッパー稼働率は70.4%と前週に対して1.9ポイントの増加、前年に対しては2.6ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて軽油、C重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/16.8%減、ジェット/27.6%減、灯油/8.4%減、軽油/9.5%増、A重油/6.6%減、C重油/10.3%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.0万kl減)。軽油の輸出は7.1万kl(前週比7.6万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べて軽油、C重油が増加し、その他の油種で減少した。前年比では軽油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は72.3万kl(対前週2.7%減)と2週連続で減少した。ジェット4.6万kl(対前週37.0%減)、灯油3.7万kl(対前週31.2%減)、軽油58.3万kl(対

前週16.9%増)、A重油16.3万kl(対前週6.8%減)、C重油16.6万kl(対前週20.7%増)。

(単位:千kl)

	今週 (6/25 ~ 7/1)	前週 (6/18 ~ 6/24)	前週比
ガソリン	723	743	▼ -20 (-3%)
ジェット燃料	46	73	▼ -27 (-37%)
灯油	37	53	▼ -16 (-30%)
軽油	583	499	▲ 84 (17%)
A重油	163	175	▼ -12 (-7%)
C重油	166	137	▲ 29 (21%)
合計	1,718	1,680	▲ 38 (2%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

7月1日時点の在庫はガソリンが取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては全ての油種で増加した。

ガソリンは158.6万kl、前週差3.9万kl減。前年に対しては12.0万kl多い。

灯油は156.0万kl、前週差6.7万kl増。前年に対しては17.0万kl多い。

軽油は144.4万kl、前週差2.3万kl増。前年に対しては11.2万kl多い。

A重油は70.0万kl、前週差0.7万kl増。前年に対しては5.2万kl多い。

C重油は195.2万kl、前週差2.4万kl増。前年に対しては19.4万kl多い。

(単位:千kl)

	今週 (7/1)	前週 (6/24)	前週比
ガソリン	1,586	1,625	▼ -39 (-2%)
ジェット燃料	757	749	▲ 8 (1%)
灯油	1,560	1,493	▲ 67 (4%)
軽油	1,444	1,421	▲ 23 (2%)
A重油	700	693	▲ 7 (1%)
C重油	1,952	1,928	▲ 24 (1%)
合計	7,999	7,909	▲ 90 (1.1%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

6月27日～7月3日のドル建て中東原油価格は値下がりしたが、為替レートの円安で相殺され、元売会社の円建て原油コストは据え置きになったものと見られる。

上記コストに先週の補助金額9.7円を加え、今週の補助金10.1円を差し引いた、7/6～7/12の実質卸価格は0.4円の値下げとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

6月27日～7月3日の製品スポット市況は、6月20日～26日平均と比べ、ガソリン・先物の横ばい、灯油・先物の値下がりを除いて、他の油種・取引で値上がりした。

直近週(6/27～7/3)の陸上スポット価格平均値は、前週(6/20～6/26)比で、ガソリンは0.7円の値上がり、灯油も1.5円の値上がり、軽油も1.6円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(6/27～7/3)に、前週(6/20～6/26)比で、ガソリンは0.8円の値上がり、灯油も1.9円の値上がり、軽油も1.3円の値上がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは横ばい、灯油は1.2円の値下がり、軽油は1.3円の値上がりだった。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー4地区平均]	今週 (6/27～7/3)	前週 (6/20～6/26)	前週比	
レギュラー	79.7	79.0	▲ 0.7	
灯油	81.4	79.9	▲ 1.5	
軽油	80.7	79.1	▲ 1.6	

(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値] [平均]	今週 (6/27～7/3)	前週 (6/20～6/26)	前週比	
レギュラー	79.0	79.0	→ 0.0	
灯油	78.0	79.2	▼ -1.2	
軽油	82.6	81.3	▲ 1.3	

※上記価格は税抜き価格

参考値 (6/27～7/3実績値)				(単位: 円/%)
油種	現物	先物	平均	
ガソリン	▲ 0.7	→ 0.0	▲ 0.4	
灯油	▲ 1.5	▼ -1.2	▲ 0.1	
軽油	▲ 1.6	▲ 1.3	▲ 1.5	
A重油	▲ 1.2			

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

7月3日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.5円高の172.5円、軽油も1.4円高の152.2円、灯油も18%ベースで17円高の2,042円(1%ベースでは0.9円高の113.4円)。ガソリンは7週連続の値上がり、軽油も7週連続の値上がり、灯油も7週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは46都道府県、横ばいは1県、値下がりはない。全国最安値は徳島県の167.3円、その次は岡山県の167.5円であった。他方、最高値は長野県の182.2円だった。最も値上がりしたのは愛知県(前週比3.0円高)、横ばいは高知県だった。

次回調査時(7/10)のガソリンの小売価格は、小幅な値上がりが見込まれる。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)			
	今週 (7/3)	前週 (6/26)	前週比	直近高値	
レギュラー	172.5	171.0	▲ 1.5	08/8/4	185.1
灯油	113.4	112.5	▲ 0.9	08/8/11	132.1
軽油	152.2	150.8	▲ 1.4	08/8/4	167.4

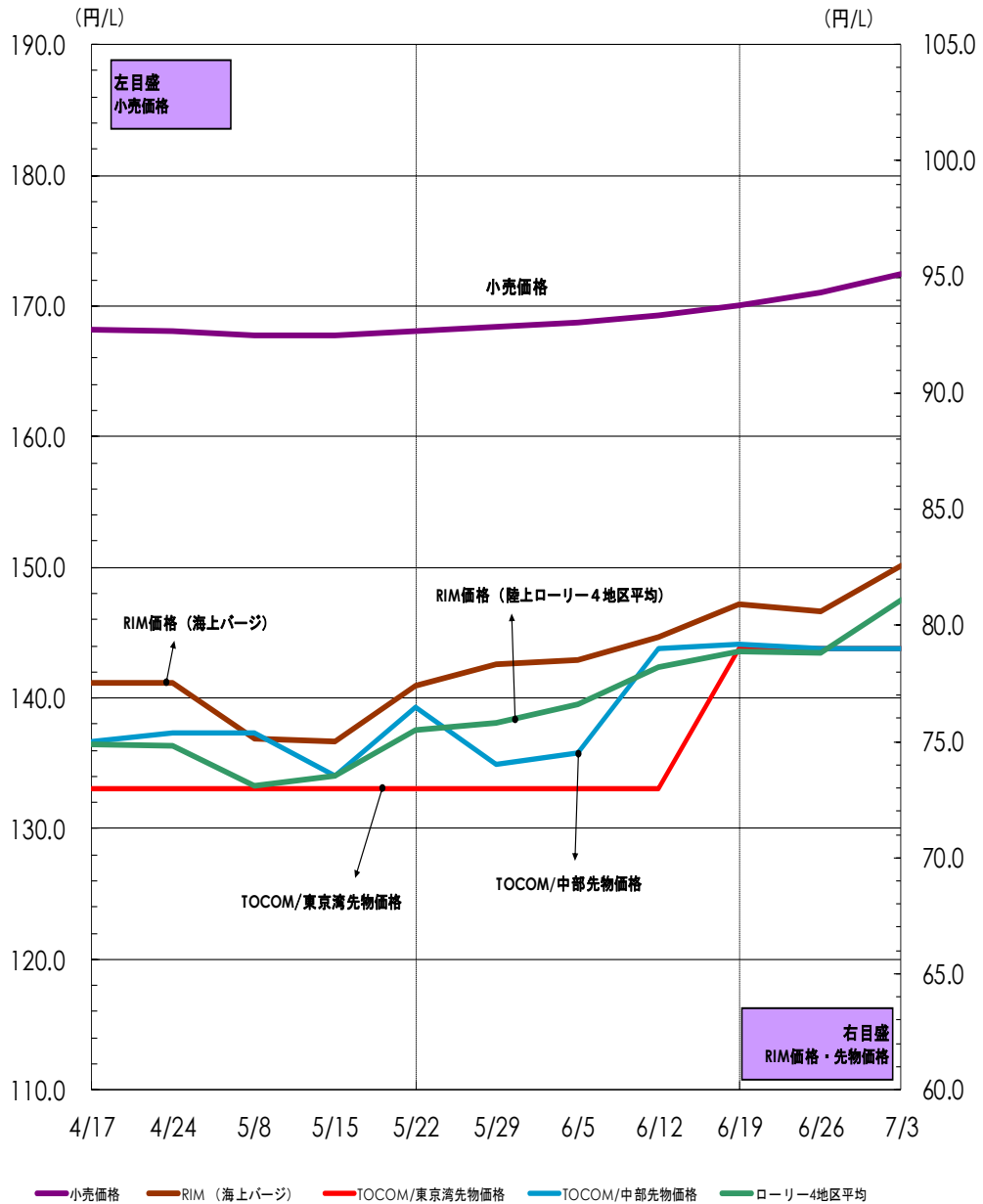
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2023/4/17 ~ 2023/7/3)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2023第14号)の公表は、7/14(金)14:00です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。